

NANTO ルーム推薦図書 Talk Café 第9回 2023.7.10

第9回は人類学研究所の Dorman, Benjamin 先生をお迎えして開催しました。

今回は図書ではなく『裸足の1500マイル（原題：Rabbit-Proof Fence）』というオーストラリア映画をご紹介します。ドーマン先生には、英語と日本語を併記したスライドをご準備いただき、大変分かりやすい英語で解説してくださいました。



映画は1930年代の西オーストラリア、白人男性と先住民女性との混血児(Stolen Generations (盗まれた世代))を、白人社会に適応させようとする隔離・同化政策について描かれたストーリーで、オーストラリアの先住民文化、植民地化、忍耐力、人権侵害、尊重、歴史的不正義について学べる深い内容となっています。

この映画を推薦した理由として、オーストラリアへの理解を深めてほしいということ、これは決してオーストラリアだけに起こったことではないということをお話しいました。

オーストラリア国内でも賛否両論のある映画で「オーストラリアは過去から前進した」「過去は私たちの生活の一部である」など、肯定的な意見と否定的な意見の双方があることもお話しいただきました。



ドーマン先生にとって印象的なシーンは何かという質問に対して、シーンというより、先住民の土地に対する知識や、動物（先住民）をどうやって人間にするのかという表現が印象的だったと話されていました。

さらに学生からの質問を受け、1980年代に「盗まれた世代」という言葉が研究者によりできたものの、社会的に浸透するまでに時間がかかり、オーストラリア政府は2008年に初めて「盗まれた世代」に謝罪したということ、また、ドーマン先生ご自身が1970年代に学校で習った歴史はこの映画とは全く違うものだったということが披露されました。



ドーマン先生のおっしゃったとおり、これはオーストラリアだけに起こったことではなく、日本や身近なところでも同様の歴史はあるのかもしれない。自国の歴史を

振り返るきっかけとしても、『裸足の 1500 マイル』をぜひ観てみてはいかがでしょうか？

■今回取り上げられた資料

裸足の 1500 マイル / フィリップ・ノイス監督・製作；クリスティン・オルセン脚本・製作；ドリス・ビルキングトン原作.-- [リミテッド・エディション].-- [アットエンタテインメント (発売)], 2003.

MH||778||1077